

# 2014 MY天声人語優秀作品(1)

## 【特別賞】

1  
年  
次  
生

札幌厚別高校 VERSION

MY天声人語

フランス語でリュミエール、ドイツ語でリヒトでイタリア語ではルーチェ。英語ではライトと言えはもうわかりだろう。これらの言葉は全て、各言語で「光」という意味をもつ▼光、というものは私たちが生きる上で欠かすことが出来ない。そんな光の一つとしてまず太陽が挙げられるだろう。植物を育てたり、発電の手立てとしたり。なんと日照時間が少ないと鬱になる人が増えるというのだから驚きだ▼2つ目には火が挙げられるだろう。驚く人もいるかもしれないが、よく思い出してみてほしい。ほんの2、300年前までは松明やランプを使用していた。また、漢字の光には「人の頭上にひかる光」という意味がある。太陽の光が届かない時間は、火が人を照らしていたのだ▼そして近代になりようやく3つ目の光が登場する。現代人ならば必ず使用しているであろう、電気だ。家の天井の蛍光灯、パソコンやスマートフォンなどの電子画面の光。最近ノーベル賞で話題のLEDなど、すぐ隣を見ればいくらかでも挙げられる▼古来より人々の希望でもあった光。しかし近年、その光は私たちに害を与えはじめている。電力確保のための自然破壊や、発電所の事故。眠らぬ町が出来たことによる生活リズムの乱れなどがいい例だ▼人々はよく「光ある未来を目指して」などという。それは誰もが願うことだろう。しかし、光が溢れすぎる世界は、果たして本当に幸せなのだろうか。忘れてはならない。光は影も生み出すということを。

## 【優秀賞】

1  
年  
次  
生

札幌厚別高校 VERSION

MY天声人語

最近よくテレビや雑誌で見かける言葉に「草食系男子」というものがある。意味を調べてみると「女性や恋愛にあまり興味がなく、自分からデートに誘わない男子」の事だと言う▼ところが先日、とある番組を見ていた所、草食系男子の名付け親である編集者の深澤真紀さんが「私が伝えたかった意味じゃない言葉が一人歩きしている」と言っていた。どういう事かと調べると▼草食系男子の本当の意味は「変化が激しくとも生きるのが難しい今という時代を「ほどよく」生きていこうとする古くて新しい男らしさを持った若年層の男性の存在を表現した」とあった▼深澤さんは雑誌等で使われているネガティブな意味合いではなく「新しい素敵な存在」として発信していこうとしたのだ▼しかし女性誌はモテない理由を草食系男子のせいにし、マスコミや広告代理店ではサービスが売れない理由を彼らのせいにした。さらには間違った意味であるのに「ロールキャベツ男子」など様々な言葉まで派生し、まさに「一人歩き」となってしまった▼この「一人歩き」の現象を深澤さんは「日本の社会は物事がうまくいかないとい人探しをする傾向にある」と言っている。実際、一般人などがSNS等で意味を完全に理解していないまま使う事はよくある事だが、テレビや雑誌で発信する際によく調べもせずに、発信してしまうのは如何なものかと私は思う。これからは私達一般人も一つ一つの言葉の意味を理解し、正しく使う事が必要とされる。

## 【優秀賞】

2  
年  
次  
生

札幌厚別高校 VERSION

MY天声人語

近頃新聞などでよく目にする「雨傘革命」という言葉。今もなお香港で続いている、「真の普通選挙」を求めるデモの名前だ▼デモの発端は選挙制度の改革をめぐり、中国共産党の意向に沿った者のみが出馬できる選挙制度が提示されたことによる。そしてこの制度に反発する学生、市民が中心となり、現在も警官隊との激しい衝突を繰り返している▼選挙と言えは、日本でも衆議院選挙があった。しかし香港とは違って、その結果は日本人の選挙に対する意識の低さを露にするものとなった▼今選挙の投票率は、戦後最低だった五九パーセントを大きく下回る、五二パーセント前後となる見通しとなった。政権選択が争点とはならなかったとはいえ、この数値はそのまま選挙に対する無関心さを表していると言えるだろう▼なぜここまで投票率が低いのだろうか。仕事で忙しい、家事で行く暇がない、もちろんこのような理由もあるだろうが、その根本には「当り前」があるのではないだろうか。我々が水道やガスがあるのが「当り前」だと考え、その大切さを気にしないように、選挙権があるということも「当り前」と考え、軽視してしまっているのではないかと、日本は様々な物に恵まれている。それ故、その大切さに気付かないでいるのかもしれない。海外と照らし合わせることを通じて、日本の「当り前にある」ということの大切さと、そもそも選挙とは何のために行うものなのかということ、を、もう一度考えなければならぬ。

# 2014 MY天声人語優秀作品(2)

## 【優秀賞】

2年次生

札幌厚別高校 VERSION

MY天声人語

「わたしの周りには、先生がいっぱい」ACのCMのワンフレーズである。近所を歩けば、様々な事を教えてくれるいわば先生のような人達がたくさんいるという、子供と地域の繋がりを表すワンフレーズだ▼ここ近年、外で遊ぶ子供が少なくなってきたのをご存知だろうか。これは世間の不穏さや、時代の変化が影響を与えているのだと私は思う▼その影響のなかでも大きな割合を占めているのは「不審者」である。気のせいでは済まされないほどの言葉を耳にする回数が増えた。そのためだろうか。子供一人で外で遊ばせるのは不安という声が挙がるのは▼不審者に遭遇する一番多い年代は小学生なのだという。また、十五時から十七時台に遭遇する割合が高いため、下校時間が関係していると思われる。下校時間より登校時間の割合が少ないのは、登校中にPTAや地域の人のサポートがあるからだと理解できるが、反対に下校時間にはそれが不十分であると言える▼子供達が安心して生活できるようにするには「地域の目」が大切になってくる。地域全体でコミュニケーションをとる、守っていくのである。自分達で深める横の繋がりがこそ目指すべき地域の目であり、安心できる地域作りに繋がるのだ▼カミナリ親父や挨拶をしてくれるお婆さんは古き良き時代の思い出ではない。いつでも見守ってくれる、「地域の先生」の良い例であることを思い出して欲しい。子供の生活を脅かす皮肉な先生などいないのだから。

## 【優秀賞】

2年次生

札幌厚別高校 VERSION

MY天声人語

今年2014年、日本の赤崎教授、天野教授、中村教授が青色発光ダイオードの開発でノーベル物理学賞を受賞した。「技術開発、発明をする」と聞くと一般的には縁遠く身近な事には感じないものだ▼発明に必要なものは何か。まず「必要は発明の母」という言葉がある通り、何が必要なのかを考えること。次にそれを実現するための技術力も必要とされる。そしてある程度の経済力や環境も必要とされ、こうして挙げると限りがない▼しかし、こうした中で発明の原点は考えることにあり、想像力、発想力が発明を生むのだ。どんなに博学多識であっても、数学のどんな難題が解けようとそこから発明は生まれてこない。発明に必要なのは想像力、発想力と言えるだろう▼想像力、発想力といえば小説家や漫画家のそれは素晴らしい。『ドラえもん』の作者、藤子・F・不二雄は約百年後の世界を想像して、どこでもドアやタケコプター、様々な発明品を漫画内に残した▼私達人間の想像力、発想力は今を越えて未来、地球を越えて宇宙の先まで想像することが出来る。さらにはこの世界を越えて天国や地獄をも想像することが出来るのだ。人間が想像出来る世界は宇宙よりもはるかに広い▼宇宙よりもはるかに広い世界を見ることが出来る私達の想像力は、この小さな世界に何を想像するのか。そう考えると発明はもっと身近で、それほど難しいことではないのかもしれない。想像力、発想力が発明を生むことを忘れてはいけない。

## 【優秀賞】

2年次生

札幌厚別高校 VERSION

MY天声人語

スーパーなどで買い物をしてみると、清涼飲料水や菓子などの原材料名の所に「アスパルテーム」や「アセスルファムK」といった人工甘味料が書かれているのが目に入る。このようなもののなかには、危険なものも潜んでいる▼「アスパルテーム」は味の素が製造している人工甘味料で、多くの清涼飲料水やガムなどに含まれ、発ガン性がある▼その他にもマーガリンやショートニング、遺伝子組み換え作物、コチニールなど安全性が確かでないものは多い。なかには、海外では使用禁止になっているが日本では使用されているものもある▼しかし、味の素(アミノ酸)やトレハロースなど人々の生活をより豊かにしたものもある▼このように我々人間は様々な物質を作り、生活を豊かにしようとしてきた。そして今も続けている。しかし東日本大震災によって起こった福島第一原子力発電所の事故で『今まで安全なのか分からないが、便利だから使っていたもの』から大きな被害にあったのは誰もが知っている▼我々人間が豊かに暮らすために開発してきたものの中には、我々自身にとって害をもたらす可能性があるということもわすれてはいけないだろう。我々ができることはたくさんあるだろう。まずは選択することだろう。原材料名を見て、安全でない物質が入っていれば、他の商品を選択することもできる。一人ひとりが自分の身を守ることが第一歩である。その先に、世の中の人々のために害のない世界を作ることができる。